

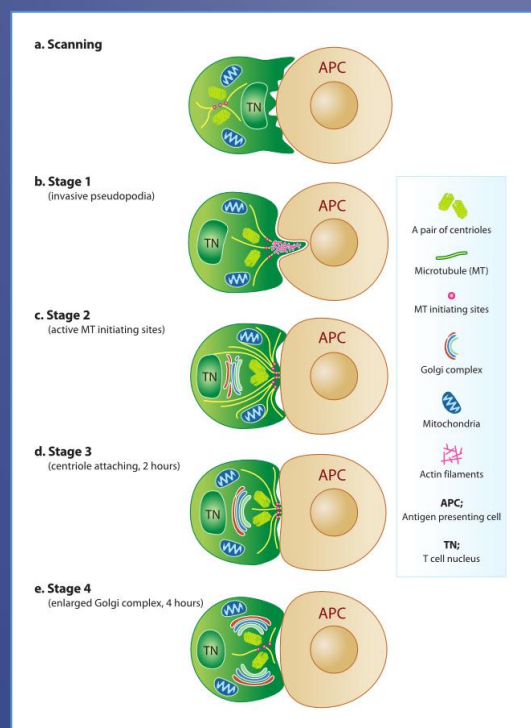
第 56 回未来医療セミナー

免疫シナプスの細胞内微細構造とその動態の解析 ～T リンパ球の内側から見た I 型糖尿病～

大阪大学大学院医学系研究科 分子内分泌学

上田 裕紀

自己免疫寛容が破綻し、自己の免疫システムによって膵β細胞が破壊されると、I 型糖尿病が発症する。免疫システムにおいて中枢的役割を担う、T リンパ球の制御が、I 型糖尿病の発症に重要であることが明らかになってきた(Ueda H. et al, Nature 2003)。T リンパ球は、抗原特異的な T 細胞受容体を介して、抗原提示細胞 (APC) 上の、主要組織適合抗原と抗原ペプチドからなる複合体を検知し、反応を開始する。この時、T リンパ球と APC の間に、免疫シナプスと呼ばれる構造が形成され、免疫応答制御のシステム標的として注目されている。この免疫シナプスの形成・細胞内構造制御を三次元的に、電子顕微鏡 (EM tomography) や共焦点レーザー蛍光顕微鏡 (3D Live-cell Imaging) で詳細に解析したので紹介する。



主催: 未来医療交流会

後援: 文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム
大阪大学「TR 実践のための戦略的高機能拠点整備」
大阪大学医学部附属病院未来医療センター
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

連絡先: 未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)
Tel: 06-6879-6557, 6551, Fax: 06-6879-6538
E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp
<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp/>

2010.9.28
18:00~19:00

大阪大学医学部講義棟
E 講堂

